



Ⅵ. 人形劇の図書館、滋賀県平和祈念館を訪ねて

新垣 夢乃

一. きっかけ

人形劇の図書館には、何度もお世話になっています。
今回は2022年6月10日に訪問し、調査を実施することができた。きっかけは、館長の瀧見英明氏より、倉庫から新たな紙芝居が確認されたと教えていただいたことである。それにより、今回、17点の紙芝居を閲覧、撮影させていただくことができた。調査メンバーは原田広、新垣夢乃である。

二. 人形劇の図書館

滋賀県大津市にある人形劇の図書館は、人形劇団トロッコが1991年に開設した、日本で唯一の人形劇専門図書館である。人形劇団トロッコの主宰者で、プロの人形使いである瀧見氏が館長を務めている。

戦時下日本の国策紙芝居研究班（以下、紙芝居班）では、2018年6月、2019年5月に人形劇の図書館で調査を行っている。詳細は『国策紙芝居―地域への視点・植民地の経験』（御茶の水書房、2022年）の収録の拙稿を参照してほしい。また、台風と新型コロナウイルス感染症流行のために延期となっているが、紙芝居班では瀧見氏を講師としてお招きした研究会の実施を準備している。

三. 紙芝居調査の成果

今回の調査では、17点の作品を撮影した。その内容は下記の通りである。



調査の様子

四. 謝辞にかえて

人形劇の図書館での調査を終えた翌日は、快晴の近江路を東へ移動し、滋賀県平和祈念館を見学した。突然のことではあったが、見学後、窓口にて紙芝居の所蔵についてたずねたところ、日高昭子氏にご対応いただいた。それにより、紙芝居の所蔵を確認し、2022年10月には調査も実施した。その報告は、次の機会にしたい。突然の訪問にもかかわらず、滋賀県平和祈念館の皆さま、日高氏にはご丁寧に対応いただきました。あらためて感謝を申し上げます。

その日はさらに、滋賀県平和祈念館より今度は大阪府大阪市へ移動。大阪公立大学の邱昱翔氏とお会いして台湾、中国の紙芝居研究の状況をうかがった。邱氏には、

【7】滋賀県・人形劇の図書館（追加調査）

	タイトル	作者	出版社	出版年	
1	楠木正行	平林博脚本・西正世志画	日本教育紙芝居協会	1941年5月	新規発掘
2	少年突撃隊	財団法人戦時物資活用協会編纂・大日本画劇株式会社製作	大日本画劇	1941年5月	新規発掘
3	温情の稔り	西村長清原作・和田義臣脚本・油野誠一絵、日本教育紙芝居協会製作	日本教育画劇	1942年8月	新規発掘
4	智證大師	天台宗宗務庁社会部脚本・西正世志絵、日本教育紙芝居協会製作	日本教育画劇	1942年12月	新規発掘
5	祖国をのぞむ	馬々田鷹四作・金子士郎画	大日本画劇	1944年11月	新規発掘
6	遂翁和尚さんと百両	福見涙草作・三木信一原画・三木英一画	臨済宗報国会	1944年12月	新規発掘
7	クジャクトスズメ	川崎大治作・羽室邦彦画、日本教育紙芝居協会製作	不明	不明	新規発掘
8	新ちやんと赤とんぼ	川崎大治脚本・清田勤絵、日本教育紙芝居協会製作	日本教育画劇	1941年9月	所蔵判明
9	虹の凱旋門	小貫武雄原作・籠宮歌二画	大日本画劇	1941年9月	所蔵判明
10	三輪車	川崎大治脚本・宇田川種治絵、日本教育紙芝居協会製作	日本教育画劇	1941年11月	所蔵判明

いつも新しい情報や勘所を教えてください。あらためて感謝を申し上げます。

また、人形劇の図書館の潟見氏には、何度も閲覧や撮影にご協力いただきました。そして、いつも演じるという観点から新鮮な問題提起をいただいています。本当にありがとうございました。

なお後日の滋賀県平和祈念館調査で収集した「新規発掘」「所在確認」作品は以下の通りである。

【補記】

滋賀県—近江国は、京都の文化圏にもあり、同時に古来、主要街道の結節点、琵琶湖水運による物流・人流のさかんな地域であった。日本海側と太平洋側をむすぶ地域でもある。浄土真宗・浄土宗寺院が多く、また琵琶湖の観光（モダニズム）、軍都・大津（歩兵第九聯隊、陸軍少年飛行兵学校）など注目すべき論点・対象のある地域であった。例えば琵琶湖観光船がK.D.F（ナチ・ドイツの労働者組織「歓喜力行団」）にならって「休養船」と改称されている事例が紹介されているが、モダニズムの戦時文化状況への対応として興味深い（『琵琶湖観光

の幕開け』図録、大津市歴史博物館、1999年）。地域の翼賛運動はこうした状況にどのように関わったのだろうか。

このような滋賀県において、すでに私たちが愛知郡愛荘町東円堂信光寺や、大津市歴史博物館所蔵史料の調査について報告してきた（拙編『国策紙芝居—地域への視点・植民地の経験』、とくに小川亜希子「愛荘町 信光寺 紙芝居」参照）。滋賀県の事例では、紙芝居が所蔵されている場所は比較的に寺院に多い。くわえて今回は滋賀県平和祈念館の調査も実施することができた。生活綴方運動などの滋賀における展開は不明だが、寺院を中心とした、仏教関係での紙芝居文化運動がとりわけ目につくように思われる。

なお2022年8月2日～9月4日まで、大津市歴史博物館で開催された企画展「戦時中の紙芝居」は、同館所蔵のもの（『チョコレートと兵隊』、『進め一億 火ノ玉父さん』など）を中心にしていたが、私たち研究班の成果が活用されている。私が訪ねたのは8月27日だったが、こうしてまた一つの「対話」の機会が生まれたことを喜びたいと思う。（大串）

【8】 滋賀県平和祈念館

	タイトル	作者	出版社	出版年	
1	銅・鉄・回収 一文銭物語	藤村正樹脚本・油野誠一絵画・日本教育紙芝居協会製作	日本教育画劇	1941年11月	新規発掘
2	日の丸の子	不明	曹洞宗宗務院	1942年7月	新規発掘
3	あやめの宿	堤千代原作・相澤道郎脚色・谷口健雄絵画・画劇報国社製作	画劇報国社	1943年11月	新規発掘
4	日の丸和尚さん	不明	曹洞宗宗務院	不明	新規発掘



『三輪車』

上2作品などは既知のものであっても参考に撮影した。



『小サイ燈明』